

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年9月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4072500509		
法人名	社会福祉法人 大川鶴喉会		
事業所名	グループホーム こすもす苑		
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字大野島855番地 (電話) 0944-87-5533		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 6月 18日	評価確定日	平成20年9月23日

## 【情報提供票より】(平成 20年 5月 31日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.5人	

### (2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋建て	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	250/日 円
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

### (4)利用者の概要

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	0名	要介護2	3名
要介護3	6名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 88.1歳	最低 75歳	最高 98歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	高木病院、高宮クリニック、おおかわメンタルクリニック、柿添歯科クリニック
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

たくさんの人との触れ合いの場を作りたいという気持ちを基本に、親を介護したくてもできない方々のお手伝いができればという思いと、地域と一緒にになってケアしていく必要性を感じ、筑後川河畔の田園の中にホームが建てられた。法人施設敷地の一角に足湯が備えられ旅館を思わせるような落ち着いた佇まいで、玄関前は季節の花で彩られそこに立っただけでホッとした気持ちになれる。法人理念の「敬愛」を基にご利用者と触れ合い、常にご利用者を見る事や目線を合わせる事で隠れた思いは何かを考えながら、認知症の方の心の中を推し量りその思いを捜している。職員自身がご利用者の仲間となり、地域の中に入り込んで普通の生活が出来るよう、理念に込められた深い意味を理解し、ご利用者の言葉に耳を傾けることを常に意識し接している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①運営推進会議参加者のご都合の良い時間・曜日を合わせ、会議終了前に次回予定日をお知らせし、開催前に電話をし定期的に開催され、お一人ひとりからご意見を頂けるよう指名している②定期的や個別に面談を行い体験談等を通じ悩みを共有したり、法人のボーリング大会・忘年会・新年会など職員親睦の場を設け、離職を最小限にしている
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ①運営者は“自分では見えない部分を外から見て貰い、足りない事を勉強シケアに役立て、他の人にも知って貰う事”と位置づけ、主任が会議の中で説明した。一部職員や各担当者が自己評価表を記入しているが、気付きやケアの振り返りの段階には至っていない。前回外部評価の結果に基づき、全職員で改善策を検討し今も取り組みを続けている。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の参加者お一人づつを指名してご意見を頂き、大野島広場の文化祭や町内行事の参加の勧めにより交流を深めている。外部評価の詳しい内容まではお伝えしていないが、今回の結果について運営推進会議で報告する予定である。市のコミュニティセンターや諸手続きについてや解らない事を市の連絡協議会等で相談したり、ご利用者が一人で外出される事が多く対応について相談し、日中の活動の見直しについて助言を頂いている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) ご利用者の暮らしぶり等について“生き活きだより”をお送りしたり、定期受診の結果等健康状態についてお話ししたり、新入職員の紹介をご家族来訪時におこなっている。玄関に“ご意見箱”を設置し、ご家族の来訪時や介護計画の説明時に“こうして欲しい事はないですか”とお尋ねするよう心掛けているがご意見や苦情等を頂く事は少ない。ご家族がご利用者に話しかけられている事をご意見と捉えて職員と話し合い、法人本部の第三者委員に相談できる事を繰り返しお伝えし、頂いたご意見等は申し送りノート等に記録し会議で報告している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ご利用者と一緒に地域の木工祭や風邪を引かないよう干し柿を食べるふうろう祭、大野島文化祭の見学、柳川水天宮祭、保育園・小学校の運動会に行ったり、職員が出場するマラソンの応援に行っている。法人主催の夏祭りを見に行って幼稚園児と触れ合ったり、中学生が職場体験に訪れたりボランティアの方がケアビクスやカラオケに来られている。小学校で花作りをされホームに持って来て頂いたり、花見スポットの情報や野菜作りの助言を地域の方から頂いている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	通所サービスに関わり地域の方々とお話する中で、家族の‘親を看たいけれど看ることが出来ない’という思いを知り、地域の方をお手伝いしたいとホームが設立された。たくさんの人と触れ合い地域の中に入り込み、一つの仲間となり住み慣れた処でやすらぎのある生活が出来るよう、法人基本理念の『敬愛』を基に、理事長・ホーム開設時の主任・幹部で話し合い、ご利用者の人権を尊重し“やすらぎとよるこびのある毎日”という理念を作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に込められている気持ちを常に持ち続けるよう、ホーム内に理念を掲示すると共に、入職時に本部やホームの副主任が理念を伝えている。毎月の会議・モニタリング・ヒヤリハット報告時や日々の現場の中で職員の言葉使いが気になる時に理念に照らし合わせて注意したり指導しており、言葉使い等職員同士でも注意し合っている。ご利用者に接する時は職員が腰を低くして目と目を合わせ教えて頂くという態度で接し、ご利用者の言葉の裏にある意味を推測しながら自己決定の支援をしている。	○	理念に込められた深い意味の理解につなげられるよう、会議の時間を利用して認知症という疾患の理解を更に深め、ご利用者の心の声を受け止められるよう、常に意識し日々のケアの中で実践していきたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご利用者と一緒に地域の木工祭や風邪を引かないよう干し柿を食べるふうろう祭、大野島文化祭の見学、柳川水天宮祭、保育園・小学校の運動会に行ったり、職員が出場するマラソンの応援に行っている。法人主催の夏祭りを見に幼稚園児と触れ合ったり、中学生が職場体験に訪れたりボランティアの方がケアボックスやカラオケに来られている。小学校で花作りをされホームに持って来て頂いたり、花見スポットの情報や野菜作りの助言を地域の方から頂いている。	○	現在行われているケアボックスを拡げていき、地域の方々が気軽にホームに来て頂けるよう、茶話会等の行事を増やしていきたいと考えている。ホーム隣の畑に来られている方に、ご利用者が1人でお出かけされた時に見守りをお願いしたり、農作業の合間に涼みがてら立ち寄り頂いたり、ご利用者と一緒に散歩の際にゴミ拾いを採り入れる等、今後の取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は“自分では見えない部分を外から見て貰い、足りない事を勉強しケアに役立て他の人にも知って貰う事”と位置づけ、主任が会議の中で説明した。一部職員や各担当者が自己評価表を記入しているが、気付きやケアの振り返りの段階までには至っていない。前回外部評価の結果に基づき、全職員で改善策を検討し今も取り組みを続けている。	○	全職員で自己評価に取り組んでいきたいと考えており、各職員が項目毎の深い意味を理解し自己評価を行う事で、新たな気付きや日々のケアの振り返りにつなげていけるよう、今後の取り組みに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議参加者のご都合の良い時間・曜日を合わせ、会議終了前に次回予定日をお知らせするだけでなく、開催前に法人内他事業所の主任が電話をし定期的に開催されている。会議の意見に基づき事業所が行ったことを報告したり、参加者お一人ひとりを指名してご意見を頂いている。地域の方に“こすもす苑”を知って頂く為に、大野島広場の文化祭や町内行事への参加を勧めて頂き交流を深められている。外部評価の詳しい内容まではお伝えしていないが、今回の結果について報告する予定である。	○	法人内他事業所と合同で運営推進会議が開催されているが、会議後にホームに立ち寄りられて、ご利用者と一緒に“お茶の時間”を過ごされたり、ときには開催場所をホーム内にする等を検討したいとの思いがあり、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のコミュニティセンターへホーム便りを定期的を持って伺っていたが、管理者が法人内他事業所に異動して日が浅く、応援を頂きながら業務を行っている状況である。諸手続きについてや解らない事等、市の連絡協議会等で相談したり、ご利用者が一人で外出される事が多く対応について相談し、日中の活動の見直しについて助言を頂いている。	○	法人内の事業所が市等を訪問する際に、同行する等して日頃より相談しやすい関係を作り、協働して課題解決に取り組めるよう期待していきたい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人全体やホーム内で副主任がパンフレットを用いて、権利擁護についての勉強会を行っており、全職員は制度の概要についてや窓口等の知識は得ている。地域権利擁護事業や成年後見制度について、ご利用者・ご家族に説明を行い、説明用のパンフレット等をホーム内に備え付けている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書をお送りする際に、ご利用者の暮らしぶり等について“生き活きだより”をお送りしたり、定期受診の結果等健康状態について、ご家族の来訪時に副主任がお話している。基本的に金銭のお預かりは行っていないが、買物等はホームで立て替えている。新入職員はご家族来訪時に紹介したり、ご利用者にはその時々に応じて説明している。	○	ご家族の来訪時だけでなく“生き活きだより”等も利用しながら、新入職員の紹介や全職員の紹介等も定期的に行っていく事で、来訪の間隔が長くなったり遠方のご家族にも、その時々に応じた報告ができる。今後の取り組みに期待していきたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に“ご意見箱”を設置したり、お尋ねしないと言い難いのではとご家族の来訪時や、介護計画の説明時に「こうして欲しい事はないですか」と、お尋ねするよう心掛けている。ケアに関するご要望等は頂く事はあるがご意見・苦情等を頂く事は少なく、法人本部の第三者委員に相談できる事について繰り返しお伝えたり、頂いたご意見を申し送りノート等に記録し会議で報告している。ご家族がご利用者に話しかけられている事をご意見と捉えて、職員と話し合い検討しケアに採り入れている。	○	行事の後にご家族と共にお茶を楽しんだりしながら、お互いの意見を言いやすい場を作りたいと考えており、今後の取り組みについて職員と話し合い、検討される事に期待していきたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員個々の適性・希望に応じてや法人の人員体制による異動があり、若い職員も多く結婚・出産等の状況に応じて勤務配置を柔軟にしている。職員が元気がない時・気になる時や、定期的な個人面談を行い体験談等を話し悩みを共有したり、休みの希望に極力応じている。調理師が調理法を指導したり必要に応じて調理に入ったり、法人のボーリング大会・忘年会・新年会など職員親睦の場を設けている。新規職員へ副主任が業務について説明し、先輩職員と一緒に業務をしながら情報提供やケアの方法等の指導を行っている。	○	申し送り簿を利用した職員間での情報共有や、自分の意見を活発に言い合い個々の長所を活かしながら、働きやすい職場づくりやチームワークの強化を考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用時に性別等で対象から外すような事はなく、職員が持っている能力や得意な事を活かせるよう、畑・お菓子作り・掲示やレクレーション等に係として関わられるよう配慮している。職員が地域活動・ボランティア活動等の参加や、社会福祉士・ケアマネジャー等の資格取得ができるよう勤務調整の希望に極力応じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の現場や法人の勉強会で常に『敬愛』を念頭に置き、接遇についての研修を行い、人権に配慮したケアとはどのような事かを職員間で話し合っている。ご利用者と同じ目の高さで会話したり、人生の大先輩から教えて頂くという姿勢で接し、ご利用者が自己決定できるような関わりができるよう伝えている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内他事業所と合同で内部研修の定期的な開催、協議会主催や認知症ケア実践者研修等の外部研修に、副主任・職員が参加し伝達研修を行っている。職員個々の経験・習熟度や目標に応じて受験申し込みを促したり、情報を収集して職員に伝え職員と共に共有しながら個人目標に盛り込んでいる。自発的に学ぶ姿勢は自分自身に選ってくるという法人の考えを基に、職員毎の「目標管理シート」でケアに関する事や、キャリアアップの自己目標を明確にし取り組みを支援している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H.19.6より大川市で予防介護説明会・意見交換会が設立され、連絡網を作成し前主任が参加していたが、定期開催迄には至っていない。県外のネットワークに参加したり同業者間での交流の機会を確保し、同業者間での連携強化のために今後も継続的に参加していく。	○	意見交換会の定期開催に向け市への働きかけを行ったり、連絡網を活用して日常的な情報交換や、研修会で知り合った方が勤務するホームに見学に伺ったり、職員の相互訪問等を考えていきたいという思いがあり、今後の取り組みに期待していきたい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通所サービス利用中の方や施設からの入居の方が多く、法人内他事業所のケアマネジャーや職員が、事業所に伺って情報収集・共有し、連携しながら顔馴染みの関係を作っている。ご本人が入居を嫌がられた時に体験利用をされ、ご利用者と一緒に食事をして頂いたり、レクリエーションで「楽しい」と思って頂けるように配慮し、自然に馴染んで頂き不安を軽減し安心して入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の本には載っていないごま豆腐やご汁の作り方等、昔懐かしい料理をご利用者に教えて頂いている。自分の名前を覚えて頂いたり、料理が苦手な職員は「美味しかったよ、今日は合格」とご利用者に声をかけて頂き励まされている。ご利用者から昔のお話をお聞きしたり職員自身の家族の事を話したり、畑の草取りを一緒にしている時に「ご苦労さん」と言われ、職員はご利用者と共に過ごし支え支えられていると感じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者をご自宅に帰りたいと仰られる時には、職員と一緒にいって行ったり、ご家族に面会に来て頂いたり宿泊や手紙等、ご協力を頂きながらご本人の望みを実現出来るようにしている。ご家族とお話している時に「昔は…」という話になって、新たに情報収集が出来たり、ご利用者の生活歴や習慣・趣味等を出来る限り把握して、行動・表情の背景を推察し思いを汲み取っている。	○	ホームで行っている事や日頃の生活ぶりについて、お話しする中でご家族も忘れてしまっている事や、新たな気付き等の情報を探りながら支援していきたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者の思い等を踏まえた『その人らしく暮らし続ける』ための個別・具体的な目標が、介護者の視点になっている方や『地域で暮らす』視点が盛り込まれていない方や、毎日個別に行われているケアが、計画書に記載されていない部分もある。計画作成時は全職員と話し合い活発に意見を出し合っており、ご利用者・ご家族のご意向や気付きや、受診時にご利用者のかかりつけ医に、生活の注意点等をお聞きし助言を頂いている。	○	ご利用者がお話しされた言葉やご利用者の視点で課題・目標を記載したり、日頃行われている個別的なケアを計画に盛り込む事で『地域で暮らす』視点にもつながり、ご利用者自身の計画になっていくと考えられる。今後の取り組みに期待していきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを6ヶ月毎に行っているが設定した時期だけではなく、ご利用者・ご家族のご要望や状態の変化がある時には、臨機応変に計画の見直しを行っている。ご要望や状態に変化が見られないご利用者についても、申し送りやケアの必要性について、職員の意見を聞いたり変更を伝達する等、全ご利用者の計画の検討を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護職員が健康管理を行い、24時間のも連絡体制や不在時は他事業所からの応援体制も整い、ご利用者の小さな変化も見逃さないようにし、脳梗塞の方の早期発見・早期治療にもつながっている。ご利用者が入院された時は看護師・ケアマネジャーがお見舞いに伺い、情報収集等を行い早期退院できるよう働きかけている。法事の時の送迎やお祭りの準備から関わった神社の祭りに毎年お連れしたり、地域の方も自由なご利用が可能な隣接の‘足湯’に行っている。	○	ご利用者・ご家族だけでなく地域の方の現状やご要望に応じて、その都度ご相談しながら柔軟に対応していきたいと考えており、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご希望の医療機関をお聞きし協力医療機関で受療して頂いたり、以前からのかかりつけ医に定期受診される際は看護職員が付き添い、生活状況をお伝えし医師との信頼関係も築かれ何時でも相談できる。検査が必要な時や治療方針決定時、時間がかかる時にはご家族にお願いする事もある。定期受診結果はご家族の来訪時にお伝えしているが、体調変化時の受診結果については速やかに報告し、ご家族が通院介助をされた時の結果についても十分把握できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、ほぼ全ご利用やご家族のご意向を把握しているが、どのような状況まで事業所内で対応できるか、職員等との話し合いは特に行っていない。ご利用者の状態変化があった時に、繰り返し話し合いをしているとは言えないが、今迄に終末期の対応について、繰り返し話し合いが必要な状況は生じていない。	○	ご利用者の重度化や終末期に事業所内で、どのような状態迄対応できるのか職員と話し合うと共に、その時々々の状況に応じた対応について、検討される事に期待していきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者にとって解りやすい言葉や方言や「○○さん」とお呼びする時も目上の方に対する尊敬の念を持って接し、職員は言葉使いや行動等に十分気を付け、その方の気持ちを汲み取って否定しないようにしている。排泄の促しに感じられない時に「先生に見て下さいと頼まれていますから」と、ご利用者が尊敬されている医師のお名前をお伝えしながら排泄介助をしている。個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止に対する取り組みを徹底させている。	○	ご利用者を「○○さん」とお呼びしたり、その時々々の状況に応じて方言を使う等されているが、職員個々がお呼びする理由や場面の理解を深めることが大切になってくる。ご家族とお名前の呼び方等についても話し合いながら、ご利用者・ご家族の誇りを損ねることのないように配慮され、更なるプライバシーの確保の徹底に期待していきたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴等の日課について生活のリズムが取れるよう、声かけは行いが無理強いはせず、ご利用者の生活習慣に合わせている。天気の良い日は外で体操をしたり、収穫した玉ねぎを軒先に干したり、ご利用者と職員が畑仕事をしているのを見ていたり、入居前に手芸をされていた方は編み棒を手にして頂いている。何もせずに寝たきりになりがちなご利用者の、部屋で寝ていたいという気持ちを尊重し定期的に声をかけ、お茶を飲んで頂いたり散歩にお誘いし、ご家族が宿泊された時は一緒に過ごして頂いている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好物をお聞きし一緒に食材買い出しに行ったり、グリーンピース、ジャガイモの皮むき、味見、盛り付け、食器の配膳・下膳、食器洗い・食器拭きをして頂いている。職員も一緒に食卓につき楽しい雰囲気作りや、他利用者と食材・調理法が異なる時も盛り付けを工夫している。菜園で採れたトマト・ナス・かぼちゃ・玉ねぎ・じゃがいも等の旬の食材の利用や、花見やバスハイクの時の弁当作りや外食をしたり、ご利用者と一緒におやつ作りをする等食事を楽しんで頂けるよう支援している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯・回数ある程度決め、他の時間帯でのご希望にもほぼ対応出来ており、体調に無理のない範囲で湯温・入っている時間、順番等ご利用者の好みに合わせている。お一人ずつの入浴や危険がない部分については職員も浴室の外から様子をうかがう等、羞恥心等にも配慮し気持ち良く入浴して頂いている。入浴を嫌がられる時は医師・看護師・家族のお名前をお伝えし、消毒しましよ等と辛抱強く声かけしたり、隣接事業所の温泉に行ったり入浴を楽しんで頂けるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事に関する一連の作業や拭き掃除、畑や庭の草抜き、洗濯物たたみをされる方や書道・読書・新聞を読んだり、誕生会の時にお謡いをご披露されたり、杜氏をされていた方が酒造りのお話をされたり、お祭りの時には獅子舞のお話をされる方もいらっしゃる。皆と一緒に行動される事を嫌がられる時は職員が一緒にお茶を飲んだり、ご利用者の行動を見ながら職員・ご家族と話し合い得意な事を推察しながら、生活の中の役割を見つけて楽しんで頂けるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物のお手伝いに来て頂けませんかと、ご利用者にお願ひしたり日常的に外出して頂いているが、入居前の生活を職員が知らない部分もあり、ご家族と一緒にご参りに行かれていた以外、習慣とされていた外出を継続できている方はいらっしゃらない。戸外のベンチで畑仕事を見て頂いたり、気分転換や五感刺激の機会を積極的に作り、ご利用者の習慣等を踏まえて「どこか行きたい所はありませんか」と、ご希望をお聞きしながら外出支援をしている。	○	ご利用者の習慣とされていた事を家族の方からお聞きし、これまでの生活の継続としての外出が日常的に出来るよう、ご利用者のご希望の時間に合わせ、地域の方と関わりながら安心して生活していく事につながるよう、今後の取り組みに期待していきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険防止のために裏口と、18:30～8:30迄の防犯上の施錠以外はご利用者が自由に入りが出来る。職員が作業する場所・立つ向きを工夫したり、ご利用者の安全確認のためプライバシーの侵害等に配慮しながら、玄関にセンサーを設置しているが音がやや大きく、人の出入りの度に音が気になる。ご利用者が落ち着かなくなれる時間帯等を把握し、必要に応じて1対1の対応が出来るようにしたり、ご利用者が1人で外出された時は法人施設職員からの連絡で、後からついて行きそつと見守っている。	○	ご利用者の安全性を重視するあまり、センサー音の設定がやや大きめであり、音による行動制限につながる事が懸念される。ご利用者の安全確認をしながらも行動制限に配慮することや、法人内の協力体制についても職員・家族を交え話し合うと共に、運営推進会議に諮りご利用者が1人で外出された時に、近所の方々への協力依頼について検討される等、今後の取り組みに検討していきたい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ご利用者、職員、消防署と一緒に火災を想定し消火器の使用方法や、避難訓練を年に2回実施している。ホーム周辺に民家も少なく地域に対し、災害時の協力依頼を行ってはいないが、敷地内に法人施設があり協力体制が整っている。災害発生に備えて飲料水の準備はあるが、食料等については法人施設の備蓄品で対応が可能である。	○	災害発生時にご利用者の安全確保と不安の軽減の為に、多くの人力が必要になって来る事も考えられ、運営推進会議の参加者の方のご協力を始め、地域の方のご協力を頂けるよう検討される事に期待していきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みに合わせ調理法や味付けを変えており、利用者ごとに一日全体を通じた食事量・飲水量を把握・記録している。カロリーの過不足や栄養の偏りを防ぐ為に、職員が立てた献立を法人施設の栄養士がチェックし、バランスについて等の助言を頂いたり、調理師から調理のアドバイスを頂く事もある。毎月1回体重測定を行い疾患によっては、医師から食事療法等の指示や助言を頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	“花のある空間作り”を目標とし玄関先の花壇や中庭には、つつじ・紫陽花・アサガオ等の季節の花が咲き、廊下には観葉植物が飾られホールには金魚が泳ぐ水槽がある。広い玄関に頂き物の木造りの大きな五重塔が大切に飾られ、木をふんだんに使った内装は温もりと安らぎが感じられる。壁にはご利用者が作られた貼り絵や写真が貼られたり、廊下の数か所に縁台風の作りつけの椅子やテーブルセットも備え付けられ、ご利用者やご家族が気軽に寛げるような空間に配慮され、居心地良く過ごせるような工夫がされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使い慣れた大きささまざまな時計や籐の椅子やテーブル、筆筒、ベッド等をご利用者・ご家族と相談しながら持って来て頂いている。昔の写真やホームでの行事の時の写真を飾ったり、ご利用者の好みの物を活かして居心地良く過ごせるような工夫をしている。		